



二ツ森は、標高1086m、世界最大のブナ天然林のある白神山地を見渡せる最高の場所です。実はここにも「ジオ」（大地）の謎があるのです。

二ツ森の頂上に登って石を見てみましょう。石の中に、なにか大きな粒がみえますね。しかも、虫眼鏡を使わなくても見える大きな結晶（といっても1mmくらい）が見えます。白い粒と黒い粒を観察できると思えます（注1）。

二ツ森の頂上を作る岩石は、深い大地の底でできた岩石です。もともとはマグマだったのですが、地下深くで、ゆっくりと冷えながら、じつくりと固まったものです。たぶん、冷えて固まるのに何万年も何十万年もかかったものと思われれます。あまりにもゆっくりと冷えて固まりますので、中の結晶もだんだん大きくなります。食塩の結晶を作った事のある方なら、ゆっくり冷えた方が大きな粒ができるという事はおわかりいただけると思います。マグマの中の結晶も同じなんですね。このようにしてできた大きな結晶だけでできている岩石が二ツ森の頂上にあるのです（注2）。

ところがです。このような岩石は普通、火山の地下深く、数kmのところまでできるものです。でも、二ツ森は山のてっぺんにありとてもふしぎではありませんか？その秘密はこの岩石のできた時代にあります。

産業技術総合研究所に土谷信之さんという、秋田県と山形県の古い火山を詳しく調べた方がいます。この方が「年代測定法」で二ツ森の岩石を調べた所550万年前に固まった石だということがわかったのです。（注3、注4）

さて、そのころの事を想像してみましょう。二ツ森の岩石は550万年前まだマグマでした。その上には火山があったと思われれます。マグマだまりの深さは最低3kmはないと困ります。そのくらいの厚さ

山に登って地底旅行!? 二ツ森のふしぎな石

の土砂でおさえつけないとマグマはすぐに爆発してしまうからです。すると、550万年前の二ツ森は3kmあるいは4km、もしかすると5kmもの地下深くにあったということになります。

では、二ツ森の上にあった何kmもの土砂はどこにいったのでしょうか？

それは水の力でけずられてしまったのです。二ツ森のある白神山地は550万年間かけてだんだん高くなってきました。それと同時に水の力でどんどんけずられてきたのです。少し盛りあがってはけずられる。また、盛りあがってはけずられる。こんな事を繰り返しているうちに、二ツ森は何千mも盛りあがり、同時に何千mもけずられたというわけです。水が山をけずる力と、けずられる力に耐える二ツ森の、550万年間の争いの結果が、標高1086mの二ツ森になったというわけです。

もし、水の力で削られなかったら、今頃二ツ森は5000mのアルプスの様な山になっていたかもしません。

注1・・・二ツ森の石は拾ってははいけません。観察するだけにしましょう。

注2・・・石英閃緑岩という深成岩の仲間です。深成岩はマグマが冷えて固まった岩石のうち、ゆっくり冷えてできた岩石の事です。

注3・・・フィッシュョン・トラック法というお金のかる方法で年代が求められています。

注4・・・前回お話しした素波里安山岩と同じ時代の岩石ですので、おそらく素波里安山岩のマグマだまりの一つです。

秋田大学教育文化学部 教授 林 信太郎
八峰白神ジオパーク推進協議会
〒018-2612
秋田県山本郡八峰町八森字ノケソリ116
秋田県山本郡八峰町八森字ノケソリ116
TEL 0185-78-2427

5月26日は「県民防災の日」



八峰町防災訓練が行われました

毎年5月26日は「県民防災の日」です。29年前の昭和58年5月26日、甚大な被害を及ぼした「日本海中部地震」を教訓に、町では消防署、消防団、地域住民が一体となって被害の軽減や防災意識の啓発のため、毎年防災訓練を行っています。

今年は5月27日に岩館地区で実施。地域住民や消防団員、八峰消防署員など約120名が参加して、避難訓練、火災防衛訓練が行われました。



午前7時、男鹿沖でマグニチュード8.5の地震が発生し、町で震度6弱を観測したことを想定し、防災無線により大津波警報を発令して避難を指示。岩館地区の住民は岩館生活改善センターへ避難し、安否確認の訓練を行いました。

その後は、火災を想定した訓練も実施。「火事だー。火事だー。火事だー。」と住民による火事ぶれにより、地域住民が駆け付けてバケツリレーによる初期消火活動を行ない、その後消防団、消防署が動し、ポンプ車に機敏な動作でホー



スをつなぎ、放水訓練が行われました。

また、消防署員から消火器の使い方の説明を受け、地域住民による消火器を使った初期消火活動も体験しました。

また、沿岸部の自治会では、昨年の東日本大震災を教訓に地域住民と消防団による津波を想定した避難訓練を実施しました。防災訓練終了後には、田中ミ二公園で峰浜地区の消防団員による水防講習会を実施。河川の堤防が決壊したことを想定し、土の積み工法の講習と実技を行いました。

参加した住民や消防団員からは本番さながらの緊迫感が感じられました。

